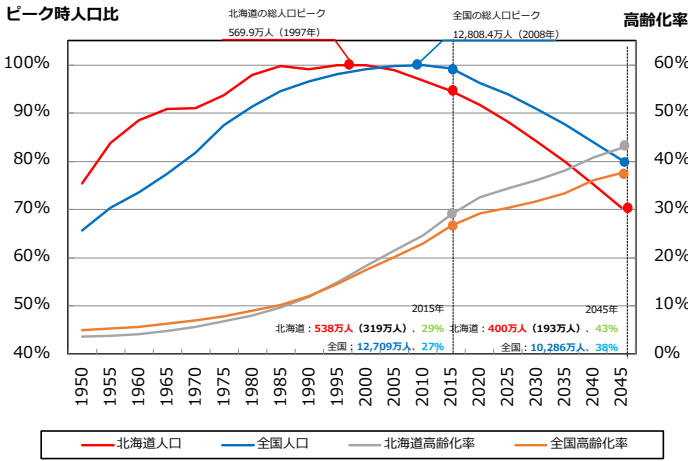


◆人口減少・高齢化の状況

北海道は全国を上回るスピードで人口減少が進んでおり、近い将来、超高齢化の人口構造とも相まって、経済、暮らし、行政などの幅広い分野において深刻な事態になることが危惧されます。

●道内人口の将来推計

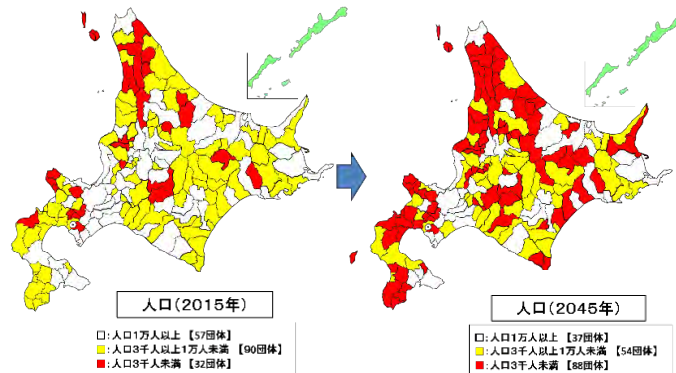
全国を上回るスピードで進む人口減少



【出典：総務省「国勢調査」「人口推計」】

●市町村別人口減少率

2045年には約半数の市町村で人口3千人を下回る



【出典：北海道総合計画(令和3年10月)】

○人口減少・高齢化の影響によって我が国への貢献度の高い本道が担う「生産空間※」の維持が困難となるおそれ。

※生産空間：ここでは、主として農業・漁業にかかる生産の場（特に市街地ではない領域）を指す。
生産空間は、生産のみならず、観光その他の多面的・公益的機能を提供している。

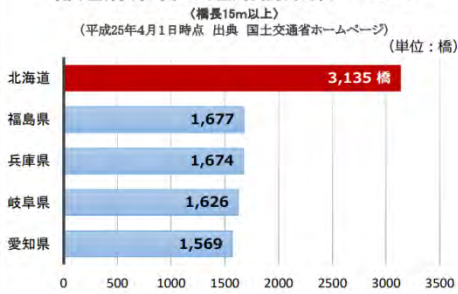
- 地域の安全・安心を担う建設産業に携わる技術者及び技能労働者の確保・育成が困難となるおそれ。
- 人口の減少や高齢化の進行に伴い、適切に管理されない空き家が増加するおそれ。
- 見守りや介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせなくなるおそれ。

◆社会資本の老朽化

高度経済成長期に整備された大量の社会資本の老朽化が進んでおり、維持管理・更新に要する費用の増大が懸念されます。

●道管理施設の他県との比較

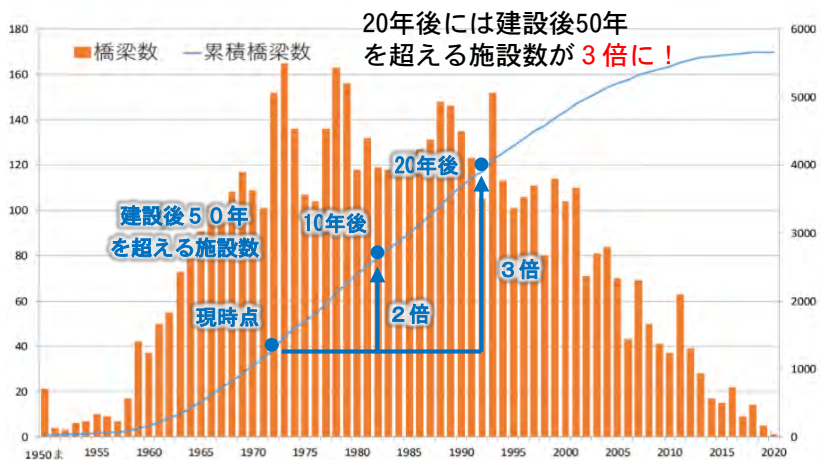
都道府県管理道路橋梁数ベスト5



都道府県管理 河川延長ベスト5

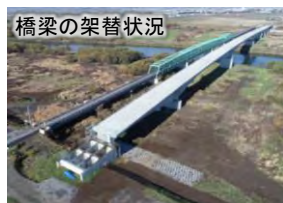


●道道橋の年別整備量と保有量の推移



【出典：北海道インフラ長寿命化計画(行動計画)(令和5年3月)】

【橋梁の老朽化】



【樋門の老朽化】



増毛稲田線 妹背牛橋(妹背牛町、深川市)

美唄川(美唄市)

【出典：北海道インフラ長寿命化計画(行動計画)(令和5年3月)】
広大な面積を有する北海道は他府県と比べて管理する公共施設が非常に多い

令和6年度 社会資本整備に関する要望

防災・減災、国土強靱化



気候変動により激甚化する水害や、切迫する巨大地震等の自然災害に備え、**国土強靱化を推進するため、5か年加速化対策予算・財源の確保や、流域治水の推進、高規格道路のミッシングリンク解消、暫定2車線区間の4車線化など、さらなる強靱化への支援の充実が必要。**

■ 激甚化する風水害や切迫する大規模地震と対策

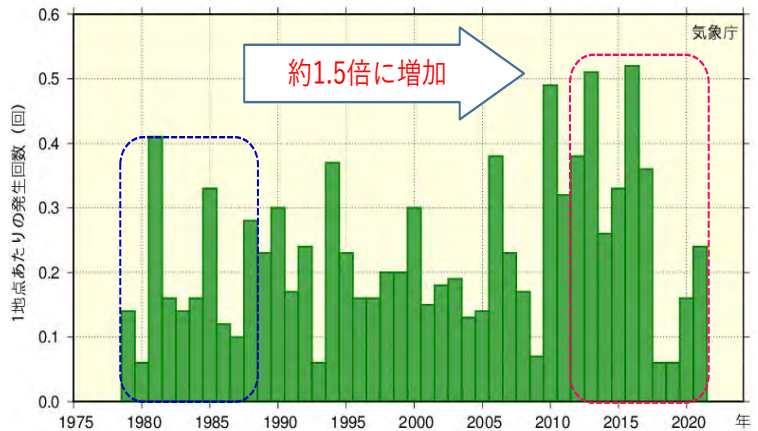
▼今世紀末時点での降雨量の変化倍率

地域区分	2℃上昇	4℃上昇	
		短時間	年間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.5
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2	1.3

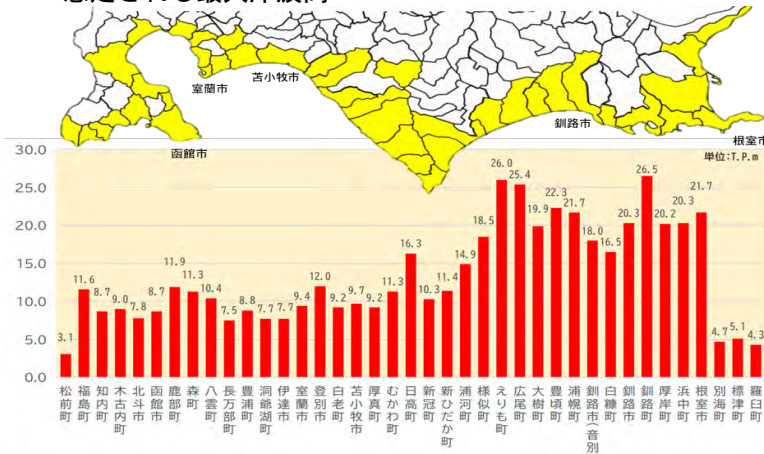
※バリ協定（気候変動に関する国際的枠組み）における将来の気温上昇2℃以下に抑えるという目標を前提とした場合の算定結果



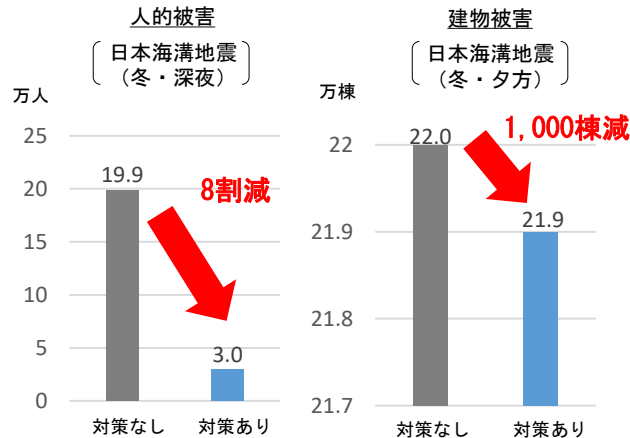
▼北海道地方のアメダス1地点当たりの1時間降水量30mm以上の年間発生回数



▼太平洋沿岸で「最大クラスの津波」が発生した場合に想定される最大津波高



▼日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震への対策による効果



【治水対策】

▼月寒川（札幌市）



【土石流対策】

▼ペンケオタソイ川（新得町）



【耐震補強対策】

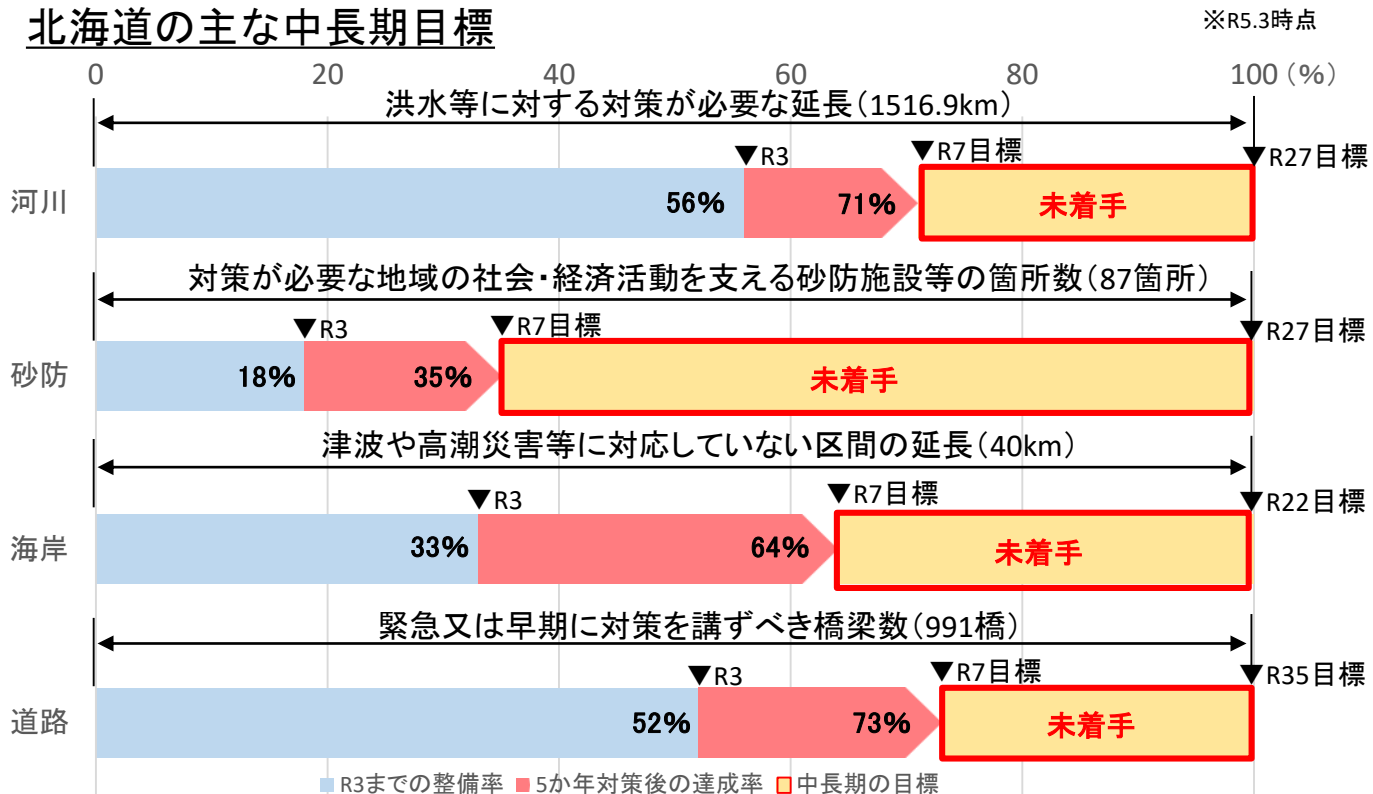
▼本別浦幌線（浦幌町）



5 年加速化対策の効果事例と今後の整備の必要性

引き続き、国民の生命・財産・暮らしを守るため、「5 年加速化対策」の推進に取り組むとともに、中長期的かつ明確な見通しの下、改正法に基づき、国土強靱化実施中期計画を定め、継続的・安定的な国土強靱化の取組を推進。

「防災・減災、国土強靱化のための5 年加速化対策」に関する北海道の主な中長期目標



5 年加速化対策後の
推進・予算の確保

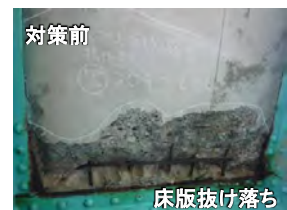
5 年加速化対策後も
早期対策が必要

5 年加速化対策の効果

道路事業（妹背牛橋（主要道道 増毛稲田線））

<事業概要>

- ・ 事業延長：L=598.7m
- ・ 事業内容：橋梁架替
- ・ 事業期間：平成26年度～令和9年度（予定）
- ・ 全体事業費：約106億円



<事業効果>

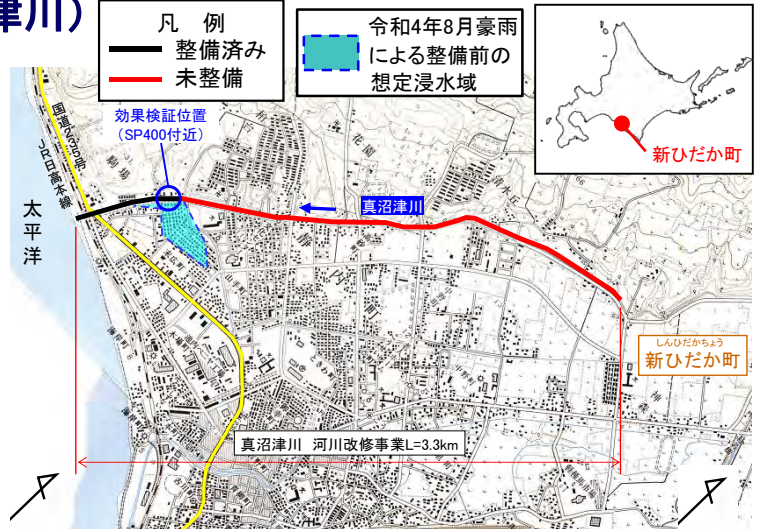
橋梁定期点検において健全度Ⅲ(早期に措置を講ずべき状態)と判定されたことから、**老朽化した橋梁を架け替え、橋梁の機能回復を速やかに図る**ことで、地域のネットワーク確保に寄与する。

河川事業（真沼津川水系真沼津川）

<事業概要>

- ・事業延長：L=3.3km
- ・事業内容：掘削、護岸等
- ・事業期間：平成15年度～令和22年度（予定）
- ・全体事業費：約85億円

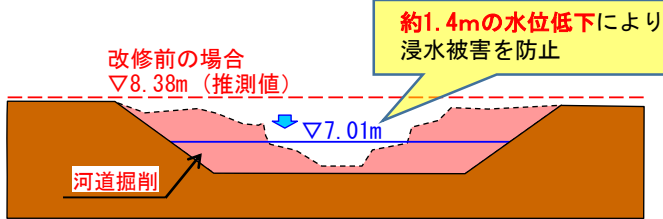
平成28年洪水被害



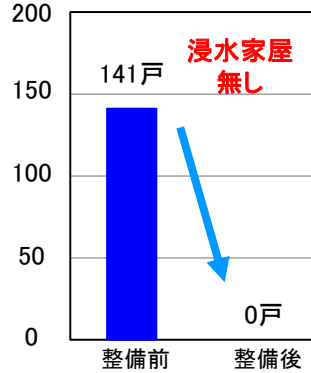
<事業効果>

令和4年8月の豪雨（流量14m³/s）では、河川改修事業により**整備前と比べて約1.4mの水位を下げる**ことができ、**家屋浸水141戸等（想定被害）を未然に防いだ。**

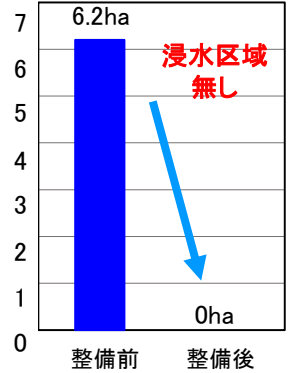
令和4年8月の豪雨における事業効果



氾濫による
浸水戸数の比較



氾濫による
浸水面積の比較



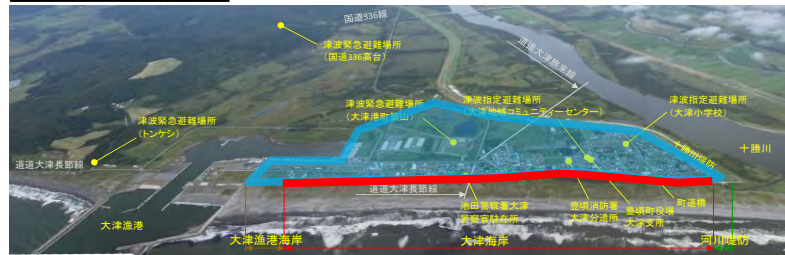
海岸事業（大津海岸）

<事業概要>

- ・事業延長：L=1,640m
- ・事業内容：護岸工
- ・事業期間：平成28年度～令和9年度（予定）
- ・全体事業費：約30.4億円

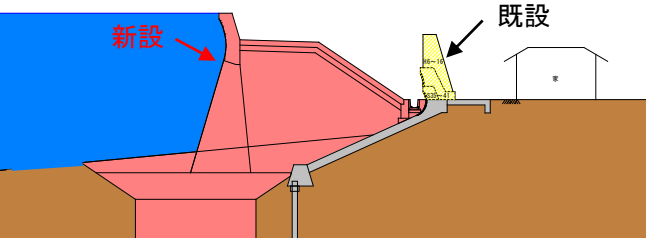
平成15年十勝沖地震時

東北地方太平洋沖地震(H23)

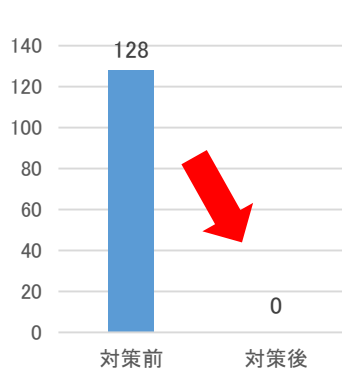


<事業効果>

設計津波水位（L1津波）よりも既設護岸が低いことから、津波対策として**護岸の髙上を推進し、背後地の浸水被害を防止**し、地域住民の安全・安心を確保する。



浸水被害家屋数（戸）



浸水被害面積（ha）

